

「反応集積化の合成化学
革新的手法の開拓と有機物質創成への展開」

第4回若手シンポジウム（中部地区）報告



第4回若手シンポジウムは北川（三重大学工学研究科、A03 班計画班員）の世話により、2011年6月11日（土）三重大学（津市）において開催された。あいにくの天気ではあったが、100名近く収容出来る大会議室を満員にする聴衆が集まり、岐阜大、名工大、奈良先端科技大、分子研、三重大の院生を中心に若手研究者が大半を占めた。北川の開会あいさつに引き続き、領域代表の吉田による「フローマイクロ合成の魅力」というタイトルでの学術講演会が開催された。講演では、フローマイクロリアクターの特長やフラッシュケミストリーの概念について説明があった後、フローマイクロリアクターの必要性について実例を挙げながら平易な言葉で解説が行われた。会場にはフローマイクロリアクターの実物も回覧され、聴衆がマイクロリアクターを実際に手に取りながら講演を聞くことが出来た。講演後は班員のみならず学生からも積極的に質問があり、講演が若手研究者に与えたインパクトの大きさを感じさせた。

後半の研究発表会では、班員の主宰する研究室の若手研究者（9名）がフローリアクターを用いた酸化反応及び光反応、多成分カップリング反応のフロー系での検討など多様な反応集積化に関する研究成果を発表し、活発な討議が行われた。引き続いて行われた懇親会にもほとんどの若手研究者が参加し、マイクロリアクターの利用方法について意見交換やアドバイスも行われ、非常に有意義な若手シンポジウムとなった。



(文責 野上 敏材)

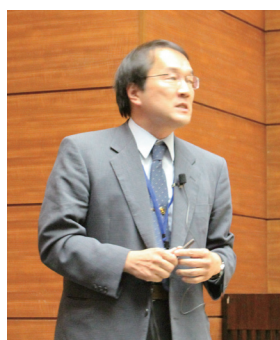
平成23年度第1回成果報告会 報告



平成23年度第1回成果報告会が6月20～21日の二日間にわたって、北海道大学、学術交流会館で開催された。二日間で140人もの参加があり、活気に満ちあふれた成果報告会となった。

初日は領域代表の吉田による挨拶の後、成果報告が行われ、A01班計画班員の松原（京大院工）が有機二亜鉛種を用いた集積有機合成の研究、公募班員の澤村（北大院理）がシリカに担持されたリン配位子を用いた遷移金属触媒反応の研究、清水（三重大院工）が共役イミンへの付加反応を利用した集積化の研究、笹井（阪大院産研）がキラルな多重活性化型有機触媒を用いたドミノ反応の研究、友岡（九大先導研）がオゾンを用いた付加型酸化反応に基づくアルケンの集積型機能化の研究、稲永（九大先導研）がイオン液体中に固定可能なイオン性不斉触媒の研究、魚住（分子研）がナノ白金触媒によるフロー型のアルコール酸化の研究について成果報告を行った。

続いて、招待講演者のPeter Bäuerle先生（University of Ulm, Germany）による「Functional Thiophene-Based Materials: Synthesis, Characterization and Application」と題する講演が行われた。オリゴチオフェン dendリマーの合成とその太陽電池特性についての最新の研究成果が紹介され、挑戦的な合成と機能の発現を両立している研究に多くの聴衆が感銘を受けた。



松原（A01班 計画班員）



澤村（A01班 公募班員）



友岡（A01班 公募班員）



Peter Bäuerle 先生

懇親会では、本成果報告会を世話した橋本（北大院薬）の挨拶に続いて、学術調査官の三浦先生（九大院工）、総括班評価者の大寺先生（岡山理大工）、丸岡先生（京大院理）、山本先生（東北大）、さらに米光先生（北大名誉教授）に、化学分野での予算獲得、領域を超えた共同研究、若手育成の重要性について大変貴重なお言葉をいただいた。また、研究者間で近況の報告や共同研究の相談が行われ、大いに交流が深まった。



橋本 (A02 班 計画班員)



学術調査官の三浦先生



総括班評価者の大寺先生



総括班評価者の山本先生



米光先生



左から、吉田、勝村、丸岡先生



左から、辻、徳永、北川

二日目はA02班計画班員の深瀬 (阪大院理) が生物活性グリカンと天然物の集積型合成の研究、公募班員の畑山 (長崎大院医歯薬) がワンポット時間集積化に基づく置換ピロリジンの合成の研究、高須 (京大院薬) がフローマイクロリアクターを用いた触媒的エノールシリル化と生物活性化合物の研究について成果報告を行った。休憩をはさんで、A03班計画班員の新名主 (九大先導研) が大環状化合物の合成とフローマイクロリアクターを用いた反応検討の研究、公募班員の伊與田 (首都大学東京院理工) が巨大な大環状ポリアレーンの合成の研究、市川 (筑波大院数理物質) がフルオロアルケンの環化反応を利用した多環芳香族炭化水素の合成の研究、羽村 (関西学院大理工) が [4+2]環化反応を利用した多環芳香族化合物の合成の研究について成果報告を行った。二日間を通じて専門分野の枠を超えて、予定時間を超過するほどの活発な議論が行われた。今後も異分野間での共同研究を活発に行い、新しい概念を生み出す研究を推進するという強い意気込みが感じられた研究成果報告会であった。



深瀬 (A02 班 計画班員)



高須 (A02 班 公募班員)



新名主 (A03 班 計画班員)



羽村 (A03 班 公募班員)

(文責 南部 寿則、清水 章弘)